

	弘前大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理工学部（第1年次:300 第3年次:10） 大学院理工学研究科（M:90 D:8）
沿 革	<p>大正9（1920）年 弘前高等学校創立</p> <p>昭和24（1949）年 新制弘前大学文理学部設置</p> <p>昭和30（1955）年 農学部設置</p> <p>昭和40（1965）年 文理学部を改組し、理学部設置</p> <p>昭和52（1977）年 大学院理学研究科修士課程設置</p> <p>平成9（1997）年 理学部、農学部を改組し、理工学部設置</p> <p>平成14（2002）年 大学院理学研究科を改組し、理工学研究科修士課程設置</p> <p>平成16（2004）年 大学院理工学研究科修士課程を廃止し、理工学研究科博士前期課程・後期課程に再編</p>
設置目的等	<p>大正9年、弘前大学理工学部・理工学研究科の母体の一つである弘前高等学校は、高等学校令第1条に依り男子に精深なる程度に於て高等普通教育を施し国家有用の人物を錬成し大学教育の基礎たらしむることを目的として設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、弘前高等学校は、弘前大学文理学部として承継された。</p> <p>昭和40年、理学に関する教育及び研究を行い優秀なる人材を養成するとともに学術の進展に寄与することを目的に、理学部が設置された。</p> <p>昭和52年、社会の複雑な進歩に柔軟に対処できる科学技術の理論と応用の研究能力及び幅広い学識とを身に着けた高度の科学技術者を養成することを目的に理学研究科が設置された。</p> <p>平成9年、理学と工学の総合的・学際的融合に基づく新たな教育システムを構築し、基礎科学と応用科学に対する幅広い知識と学際的センスを備え、柔軟な適応力と創造性に富んだ人材の養成を目的に、理工学部が設置された。</p> <p>平成14年、理学と工学の総合的かつ学際的な融合に基づく幅広い専門知識と課題探求能力を有する高度専門性職業人を養成することを目的に、理工学研究科が設置された。</p> <p>平成16年、幅広い視野と柔軟かつ総合的な判断力を持って課題に対</p>

	<p>応でき、即戦力として活躍できる研究者と高度専門職業人を養成することを目的に理工学研究科博士前期課程・後期課程に再編された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>弘前大学においては、世界と地域に対し、人材の育成と情報の発信を行い、かつ、世界的教育研究拠点の形成を目指し、地域の活性化を支える高い教養と幅広い知識を有する社会人と高度専門職業人の育成に取り組んでいるところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理学と工学の融合を理念とした教育を展開し、国際的な競争下にある企業の開発・製造に従事する高度な技術者等の育成の役割を充実させるとともに、学際的課題を解決し得る柔軟で総合的な判断力を身に付けた人材育成の役割を果たす。 ○ 青森県をはじめとする周辺地域の工学教育の機会均等に資する。 ○ コアカリキュラムによる学部教育と大学院における汎用的工学教育の実施、国際交流協定校との交流・連携などの実績を生かし、基礎科学教育とそれに続く国際水準の工学教育を遂行する教育改革を進め、グローバルに活躍してイノベーション創出に貢献できる工学系人材を学部・大学院を通じて育成する教育を目指して不断の改善・充実を図る。 ○ 医用メカノインフォマティクス分野、地震・防災工学分野、地球資源・再生可能エネルギー分野及び新物質創成分野をはじめとする工学の諸分野の研究を推進する。 ○ 青森県や地元企業等との受託研究及び共同研究並びに青森県や各市等への産業振興関係委員会への委員としての参画など、これまでの社会貢献活動の実績を生かし、青森県における産業振興に貢献する。 ○ 医用システム開発マイスター養成塾の実績を生かし、大学院への積極的な社会人受入を促進し、地域の社会人学び直しに貢献する。 ○ 小中高生向けの科学体験学習、高校等への出前授業、市民向け講座等の積極的展開などを通じ、地域の理科教育、科学技術教育の推進に貢献する。